

ウミガメ類の産卵場創出及び  
海草類の生育範囲拡大の検討状況について

平成29年12月

沖縄防衛局

## ウミガメ類の産卵場創出の検討

○公有水面埋立承認願書に添付された環境保全に関し講じる措置を記載した図書(以下「環境保全図書」という。)において、「本事業では、約4,000mの自然・半自然海岸が消失すると予測されます。これに対し、本事業では事業実施後にも存続する砂浜を対象として、ウミガメ類の上陸、産卵にとって良好な環境条件を整え、利用しやすい場を創出することを検討します。」と記載。

### 【ウミガメ類の上陸、産卵のための良好な条件を整え利用しやすい場の創出の検討対象とする地域の選定について】

- ウミガメの上陸・産卵には複数の環境条件が複雑に関わっているため、これまでに上陸・産卵が行われたことのない場所に新たに産卵場所を創出することは容易ではない。そのため、現在までに上陸・産卵実績のある場所から創出場所を選定し、より良い場所として改善することが望ましいと考えられる。
- また、上陸・産卵実績のある場所のうち、事業による影響を受けない、もしくは影響が比較的小さいと予測された場所が、創出場所として適していると考えられる。
- 上記に該当する場所であっても、現状において、上陸回数が多く、産卵・孵化が確認されている場所については、現状を維持することが望ましいと考えられる。

平成19年から平成27年までのウミガメの上陸実績は、前原・松田23回、久志・渦原2回、辺野古・豊原7回、平島2回、キャンプ・シュワブ(改変区域外)及び辺野古弾薬庫19回、瀬嵩5回、汀間4回、カヌチャ19回、安部171回、嘉陽26回、パン崎240回であり、この中から検討対象とする地域の選定を、以下の観点から今後行っていく予定。

### 【検討項目】

#### ・海岸の環境

- 「産卵及び孵化の確認数」「灯火・照明の有無」
- 「人の活動」「車両の乗り入れ」「リーフからの距離」
- 「砂浜の規模」

#### ・事業の影響

- 「地形・底質の変化」「航空機騒音の影響」「夜間照明」



# 海草類の生育範囲拡大の検討

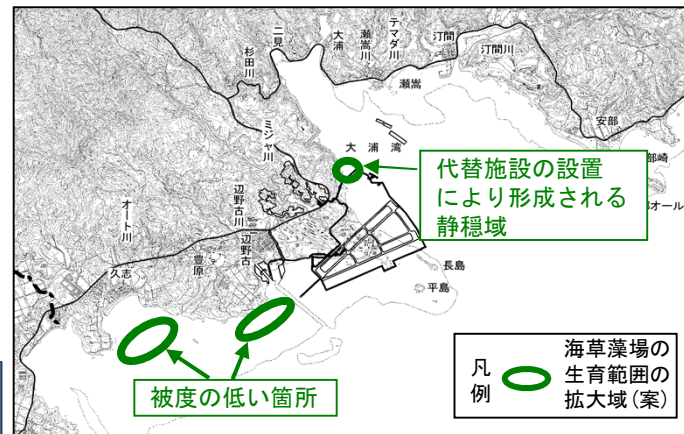
## 1. 評価書における環境保全措置の記載内容

「海藻草類」における内容  
**【工事中】**  
 ・工事の実施において周辺海域の海草藻場の生育分布状況が明らかに低下してきた場合  
**【施設の存在・供用】**  
 ・代替施設の存在に伴い消失する海草藻場に関する措置として

生育範囲拡大に関する方法等を検討し、可能な限り実施する。

「ジュゴン」における内容  
**【施設の存在・供用】**  
 ・施設等の存在に伴う海草藻場の減少に対してジュゴンへの影響を最大限に低減するため

海草藻場の拡大を図る保全措置を講じる。



評価書における海草藻場の拡大・造成域（案）

## 2. 主な検討内容

### (1) 藻場の拡大・造成場所の検討

- ・H S I (Habitat Suitable Index) モデルによる候補地の選定  
 海草藻場の拡大・造成に関する環境要因として、水深、外力（シールド数）、底質粒径、土砂堆積厚を設定し、検討中。
- ・現地踏査による候補地の確認  
 嘉陽地先、瀬嵩地先、辺野古弾薬庫下、豊原地先、久志地先を候補地として検討中。

※事業の安全かつ円滑な実施の観点から、表示していません。

検討中の候補地

### (2) 藻場の拡大・造成方法の検討

検討した手法	検討状況
播種	種が砂に埋もれて発芽できない
栄養株の移植	本事業対象海域では栄養株の調達が不透明
人工種苗の移植	よりよい手法について生育検証試験にて検討中

### (3) 生育検証試験の実施

マット状生分解性素材による人工種苗の移植  
 ・水産庁等の事例がある

ポット状生分解性素材による人工種苗の移植  
 ・マット状より設置の自由度が高い  
 ・事例がない  
 ⇒検証試験を実施し、検討中。



ポット状生分解性素材